

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	療育支援工房 石丸教室		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 23日		～ 2026年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	70	(回答者数) 13
○従業者評価実施期間	2026年 1月 23日		～ 2026年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 10日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者との日々の連携。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・送迎時の申し伝えや提供記録のみではなく、電話やLINE等の連絡ツールを用いることにより、保護者様がお問合せをしやすい環境にしている。</li> <li>・お便りや、HP内のブログ、Instagram等のSNSを活用し、事業所内の様子を積極的に公表している。</li> </ul>	保護者様側からの問い合わせだけでなく、こちらからもより積極的に連絡を入れることが出来れば良い。
2	事業所の職員間での連携。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日午前中に職員ミーティングを実施しており、業務連絡だけでなく、利用児の様子や支援内容についても細かく共有や検討が出来ている。</li> <li>・また、定期的に管理者と職員での面談を実施しており、職員全員が働きやすい環境作りを徹底している。</li> </ul>	ミーティングの質をより高める為に、職員一人一人のスキルアップが出来るような研修を実施出来れば良い。
3	事故に対するリスク管理。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・稟議をする際に、デメリットやリスクについて細かに挙げた上で検討している。</li> <li>・細かなことでもヒヤリハット報告書を作成している。</li> <li>・事故が起きた際、再発防止策を当事者のみではなくミーティングや他教室間で検討して決定している。</li> </ul>	ヒヤリハット報告書を作成することへのマイナス感情を無くすことが出来るように事業所全体での雰囲気作りをしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所内の設備、環境面のバリアフリー化が出来ていない箇所がある。	必要に応じて物品の購入などを行っているが、1軒家のため大規模な改修は難しい。	改修は難しい為、POP等の視覚的ツールや、細かい道具を活用し、利用者の障害の特性に合わせた環境設定を行い、バリアフリー化を目指していく。
2	地域社会への参加・交流があまり出来ていない。	外出イベントの際に交流の機会はあるが、「地域社会への参加・交流」を目的としたイベントは、利用者の障害の特性上のリスクや、ニーズ等の観点から実施出来ていない。	事業所で作成したアイロンビーズや段ボールなどの作品展等、実施出来そうな案はある為、利用者や保護者のニーズとして挙がった際に対応出来るよう、日頃から施設や地域団体等と連携を取り、体制を整える必要がある。
3	ペアレントトレーニングが不足している。	保護者様からの相談を受けたり、対応方法についての助言はしっかりと出来ており、保護者のニーズを満たすことは出来ている。しかし、利用児と保護者のニーズに相違がある時や、保護者の障害に対する理解が不足していると感じる時が多い。保護者に対してははっきりと言える体制作りが難しい。	事業所から直接言うことは難しい為、外部の研修等を紹介出来れば良い。ペアレントトレーニングについても、他社との提携を検討していく必要がある。